

医師研修プログラム

2024年10月 出田眼科病院

本プログラムは、眼科臨床医として必要な知識、臨床技術を習得することを目標としています。
研修レベル別に、下記1～3のコースを設けています。

1. レジデント（眼科専門医資格未取得者）
眼科医として基礎的な内容の習得を図ります。
2. フェロー（眼科専門医資格取得者）
さらに専門性の高い領域の習得を図ります。
3. 常勤医師
眼科医として十分な経験を積んだ後、生涯学習としての修練を図ります。

また、当院では、“誠の心”を理念に掲げ、技術と同等に人間性を重視しています。
具体的には、①患者さんの心身の治療に専心する、②専門知識の研鑽と人格形成に努める、③社会の変化に柔軟に対応し地域に貢献することを目標としています。

■研修コースごとの概要

1. レジデント

(ア) 研修対象者と研修期間

◇新専門医制度で専門医取得を目指している方（専攻医）

現在、久留米大学と東京歯科大学市川総合病院の専門研修プログラム連携施設になっています。
当院での研修時期は、基幹施設での研修時期に応じて決定されます。
当院での研修期間は1～2年となります。

◇平成15年（第97回）以前医師国家試験合格者で旧専門医制度で専門医取得を目指している方
当院は、日本眼科学会専門医制度研修施設です。

当院での研修時期および研修期間は個別に相談のうえ決定します。

◇初期臨床研修後、専門医取得とは無関係にスキルアップを図りたい方

当院での研修時期および研修期間は個別に相談のうえ決定します。

(イ) 研修目標

一般眼科臨床を研修する事を目標とします。一般眼科医として眼科領域の疾患の診断、治療に責任をもって対処できるための知識と技術を獲得します。

1年目はフェローや常勤医師について眼科診療の基礎知識と技術の習得を目標とします。

指導医と共に外来及び入院患者を受け持ち、患者や家族との関わり方、チーム医療の実践などを学習します。光凝固治療や外眼部手術の執刀もを行い、内眼手術の基本的な手技や手術理論の学習も行います。また、手術助手を行い、白内障手術の研修も開始しますし、症例検討会や医局会に参加して、臨床知識の習得と臨床医としての患者対応に励みます。

2年目以降の研修目標および方針は、基幹施設の研修プログラムや指導医の研修評価を踏まえて設定します。白内障手術などの内眼手術の研修を本格的に行い、診療技術のさらなる向上や専門的技量の習得を目指します。医の倫理、医療に関する法律も学びます。

2. フェロー

(ア) 研修対象者と研修期間

眼科専門医を取得した方が対象です。研修期間は原則 2 年ですが、必要に応じ延長も可能です。

(イ) 研修目標

各領域を掘り下げて学ぶことを目標とします。専門分野として、診断、治療に責任をもって対処できるための知識と技術を獲得します。

網膜・硝子体フェロー、緑内障フェロー、眼形成フェローを設けており、段階的にこれらすべての研修を受けることも可能です。

【網膜・硝子体フェロー】

- ・ 内科外科網膜疾患の診断学
- ・ 網膜剥離に関連する光凝固および冷凍凝固などの非観血手術
- ・ 強膜バックルなどの強膜手術
- ・ 種々の疾患に対する硝子体手術の習得を目標とします。また、難易度の高い白内障手術には硝子体手術の技術が必要となる場合が多いので、これについても研修を通じてレベルアップが可能です。

※ 責任医師：川崎勉（副院長）

【緑内障フェロー】

- ・ 各種緑内障の診断学
- ・ 各種緑内障手術の理論と実際

※ 責任医師：松元俊（副院長）

【眼形成フェロー】

- ・ 眼形成眼窩疾患の診断学
- ・ 眼形成眼窩疾患の治療理論と実際

※ 責任医師：出田真二（院長）

(ウ) 手術目標の基準

◇白内障手術ランク

- A：手術中のトラブルに対し自ら対処できる。
- B：手術中のトラブルに対しては、応援を必要とする。
- C：執刀する場合に指導者を必要とする。

◇網膜剥離手術ランク

- A：強膜切開が行える。
- B：位置決めや排液などを行える。
- C：網膜冷凍凝固術が行える。
- D：眼底・硝子体のスケッチを的確に行える。

◇硝子体手術ランク（初心者）

- A：癒着のある硝子体手術を行える。
- B：黄斑円孔や黄斑浮腫など黄斑疾患の硝子体手術が行える。
- C：単純な硝子体切除術が行える。
- D：眼底・硝子体のスケッチを正確に行える。

※術者になるには白内障手術ランク B 以上が必要

(エ)フェロー研修終了時

それぞれの手術ランクを評価します。ランク A に達していない場合は、ランク A に達するよう引き続き努力します。ランク A に達した場合は、次なる目標を院長らスタッフと相談して決定します。さらに網膜硝子体手術を研修する場合は、以下の網膜硝子体上級ランクを目標として取り組みます。

- ・ 網膜剥離の硝子体手術が行える。
- ・ 増殖糖尿病網膜症や増殖硝子体網膜症の硝子体手術を行える。
- ・ バックルを一人で行える。
- ・ 再手術のバックルが行える。
- ・ 再手術の硝子体手術が行える

3. 常勤医師

(ア)対象者

当院での勤務により、眼科医療についての生涯教育を希望する方。

(イ)目標

診療の実践を通してさらに技量を磨くことを目標とします。

また、希望に応じて特定領域の研修を行うことも可能です。

■待遇

当院の定める基準によります。

■研修終了後の進路

1. レジデント

当院でフェローや一般医師として勤務することも可能です。各種相談に応じます。

2. フェロー

当院で常勤医としてさらに症例を経験し、研鑽をつむことも可能です。

また、派遣元の大学などでの勤務も考えられます。各種相談に応じます。

3. 常勤医師

当院で継続勤務することを原則としますが、派遣元の大学などでの勤務も考えられます。

各種相談に応じます。

■指導スタッフ

出田真二（院長）、松元俊（副院長）、川崎勉（副院長）、三ヶ尻健一（医局長）、
林メリージェーン（麻酔科長）

■特別診

当院の専門領域である網膜硝子体疾患、緑内障、眼形成の他に、以下の分野を専門とした一流の医師を
招聘し、専門外来および手術を担当して頂いています。

従って眼科のあらゆる領域について、高いレベルの診療に触れることができます。

専門分野	医師	所属・役職
角膜	山口 剛史 先生	東京歯科大学市川総合病院眼科 教授
	天野 史郎 先生	お茶の水・井上眼科クリニック（東京）院長
白内障	徳田 芳浩 先生	井上眼科病院（東京）副院長
緑内障	結城 賢弥 先生	名古屋大学眼科 准教授
	豊川 紀子 先生	永田眼科（奈良）副院長
網膜硝子体	吉田 茂生 先生	久留米大学眼科学講座 主任教授
黄斑疾患	永井 由巳 先生	イワサキ眼科医院（大阪）副院長
ぶどう膜	八幡 信代 先生	九州大学眼科学教室 准教授
斜視・弱視 神経眼科	中西 裕子 先生	神戸大学眼科学教室 准教授
	増田 明子 先生	兵庫医科大学眼科学教室 講師
遺伝性疾患	近藤 寛之 先生	産業医科大学眼科学教室 教授

■研修ご希望の方へ

研修のご希望は随時受け付けております。

電話またはEメールにてご連絡のうえ、履歴書をご送付ください。

選考は書類審査及び面接にて行います。

研修前のご見学や、WEB会議形式でのご相談も可能ですので、お気軽にお問合せください。

■お問合せ先

出田眼科病院 事務長 高本昌彦

〒860-0027 熊本市中央区西唐人町 39

電話：096-325-5222 Fax：096-311-5512

E-mail：takamoto@ideta.or.jp